

地方にいるメリットを生かし、 仙台発信型の技術で グローバルに事業を 展開したい。

トライポッドワークス株式会社
代表取締役社長

さ さ き けんいち
佐々木 賢一 さん

プロフィール

1967年2月21日生まれ。仙台市出身。血液型A型。
1985年仙台第二高等学校卒業、1990年電気通信大学卒業。日本総合研究所、日本オラクルでデータベース管理技術を身につけたのち、電力、鉄道、航空会社のアカウント営業を担当。2000年同社東北支社設立と同時に東北支社長に就任。2005年トライポッドワークスを創業。同社のセキュリティプロダクトは中小企業からグローバル企業、官公庁自治体まで20,000社への導入実績がある。座右の銘は「時の運、人生の縁」。「いまもかわいがっていただいている、宮城大学の初代学長でもある野田一夫先生の著書のタイトルになった言葉です。タイミングと縁、この両方が大切だと思います」と話す。



生産性向上に貢献する 映像解析の技術

― 昨年11月に創立10周年を迎えられました。現在の御社の事業についてお聞かせください。

大きく分けて2つの事業を展開しています。1つが企業向け情報セキュリティの「プロダクト（製品）」開発で、最近ではマイナンバー制度導入に伴う情報漏えい対策の提案が多くなっています。

もう1つが映像解析のサービスです。東北大学を中心とした大学研究機関と、少し先のビジネスニーズの研究もしています。ここで、5年は映像関係の話題が多く、弊社にもそのノウハウが大分蓄積されてきました。そこで、その知識と技術を集約し、ネットワークカメラ事業としてサービスを提供しています。

― ネットワークカメラ事業とは、どのようなものですか。

人の役に立つ映像情報を、どう解析し、簡単な仕組みでどう提供するかというのを考えるのが私どものネットワークカメラ事業です。いつでもどこにいても、見たい現場がスマートフォンなどで見られるということも提供するサービスの一つです。農業や土木関係など、フィールドが広がって、人手不足や高齢化という課題を抱えつつも、これまでITの活用が進んでいなかった分野にご活用いただけるITを目指

しています。

例えば野菜をハウス栽培している方で、野菜的な状態を見て回る以外に、防犯センサーが反応したときや、温度が上がったハウスの屋根を開けるなど、日に何度も、場合によっては夜中でもハウスに足を運ぶことがあります。それが大きな負担になっています。そこで、高価なセキュリティシステムを導入するのではなく、安価なカメラを設置することで、現場に行かなくてもハウスや農場の状況をスマホやタブレットで手軽に確認できるようにしました。

土木関係の方々には、工事の工程管理や安全管理に活用いただいています。工事現場の様子を定点で長時間撮影し、それをタイムラプスという手法で早送りします。すると、工事の手順や進み方、現場で重機や人がどのような動線で動いていたかなどを、映像によって分かりやすく解析することができます。

例えばこの技術を小売店で応用すれば、店内のお客さんの動きをヒートマップなどで表すことで、より効率的なレイアウトづくりの参考にもできますし、食品加工工場では、異物混入防止策などにも活用できたりするかもしれません。

そもそも人間は、外部情報のうちの大部分を、視覚で得られるものから判断します。映像解析がもたらす可能性は今後も広がるのではないかと思っています。

仙台という地方都市のアドバンテージを生かす

― 御社では、仙台市や宮城県とも連携し、小型無人機「ドローン」を活用した産業振興も目指しているそうですが、この取り組みと今後の可能性についてお聞かせください。

ドローンは、弊社の今の事業の延長に必ず入ってくるものだと考えています。ドローンは、さまざまな報道からネガティブなイメージが先行していますが、人が行けないところを見に行けたり、そこへ物を運ぶことができたりと、多くの可能性を秘めており、農林水産、土木、観光の分野、防災や災害時にも幅広く活用できるものです。

昨年12月10日、航空法が改正されて、ドローンは総務省が人口密集地域として決めているエリアでは飛ばしてはい



情報発信のため年間複数回のセミナーやイベントを開催。写真は毎年4月に秋葉原で開催している自社イベント「Tripod Communication Day 2015」の様子（昨年は200名を超える参加）。

けないといった規制が定められました。が、国家戦略特区として航空法の規制緩和が認められる仙台でなら、産業化のチャンスは広がるでしょうし、市内中心部から車で10分も走れば規制エリアの圏外になりますので、試みに飛ばしてみたいと思ったときにもすぐにそれができないです。

ドローンを有効活用できるフィールドというのは、実は都会ではなく地方なんです。人口が密集しているところなら、物を見たり運んだりするのは人間がした方が効率的ですからね。そのうち、完全な自動操縦化などが実現されていけば、さらに産業化は進んでいくと思います。

ですから、まずは行政の方々にもドローンに触れていただき、正しく理解していただくのと、昨年11月には、仙台市職員の方を対象に体験セミナーも開いたところです。

創造的な発想で世界に通用する技術を

― 最後に、これから取り組んでいきたいことをお聞かせください。

日本のIT産業においては、自社ブランドで勝負している企業は実はそんなに多くないと思います。ですから私も、仙台にいながら自社ブランドで勝負できる製品・サービスをお届けすることを信条とし、ITを簡単なものにしていくというイノベーションを

起こしていきたいと思っています。

仙台に本社を構えているのも、地方に拠点を置いていることがアドバンテージだからです。その理由の筆頭は、Uターン、Iターンを含め、仙台には優秀な人材が非常に多いということです。クリエイティブな発想で仕事をしたい人、向上心のある人に、その能力を仙台で発揮してもらおう企業でありたいと思っています。

研究者や専門家の方々が近くにいらつしゃって、関係が作りやすいという環境も、弊社にとっては重要ですが、世界中の人から「トライポッドワークスって仙台の会社だったの?」と言われるようになるのが一番の地域貢献だと思っていますので、これからも仙台から世界に通用する技術を発信し、グローバルに仕事を展開して参ります。

【概要】

トライポッドワークス株式会社

代表者：代表取締役社長 佐々木 賢一

設立：2005年11月21日

資本金：74,775,000円

事業内容：企業向けセキュリティソリューションの開発・販売、IPカメラを使用した映像提供/映像処理サービスなどを提供しています。

本社所在地：仙台市青葉区一番町1-1-41

カメイ仙台中央ビル7F

営業拠点：東京都中央区日本橋室町1-5-3 福島ビル8F

TEL. 022-227-5680 (代)

ホームページ：http://www.tripodworks.co.jp

森

『森』は生きています。人間と共に。

二酸化炭素を酸素に。人間にとって欠かせない酸素を、人間が吐き出した二酸化炭素から作り出す植物たち。この自然のサイクルを、一本の木を、そして森全体を、見守っていかなくては……。そう私たちは考えています。私たちは青葉環境保全です。

より良い環境をめざす
AOBA 青葉環境保全

本社/仙台市若林区蒲町19-1

電話(022)286-3161(代)